

フィールドワーク・インターンシップ実践報告

コロナ禍におけるフィールドワークの実践と活動成果  
- プロジェクト演習における愛媛県伊方町のサダワン動画分析の例 -

淡野 寧彦 (地域資源マネジメント学科)  
石水 菜々香 (地域資源マネジメント学科・学部生)  
大橋 樹季 (地域資源マネジメント学科・学部生)  
岸本 直美 (地域資源マネジメント学科・学部生)  
渡部 結斗 (地域資源マネジメント学科・学部生)  
井上 雛菜 (地域資源マネジメント学科・学部生)  
河内 裕里 (地域資源マネジメント学科・学部生)  
秋丸 國廣 (社会連携推進機構)  
牛山 眞貴子 (地域資源マネジメント学科)

A practice and outcomes through fieldwork activities in Covid-19 catastrophe  
- A case study of video analytics on "Sadamisaki wonder view competition" in Ikata Town, Ehime Prefecture

Yasuhiko TANNO (Regional Resource Management)  
Nanaka ISHIMIZU (Undergraduate Student, Regional Resource Management)  
Itsuki OHASHI (Undergraduate Student, Regional Resource Management)  
Naomi KISHIMOTO (Undergraduate Student, Regional Resource Management)  
Yuito WATANABE (Undergraduate Student, Regional Resource Management)  
Hiina INOUE (Undergraduate Student, Regional Resource Management)  
Yuri KOCHI (Undergraduate Student, Regional Resource Management)  
Kunihiro AKIMARU (Institute for Collaborative Relation)  
Makiko USHIYAMA (Regional Resource Management)

キーワード：コロナ禍 (COVID-19)、フィールドワーク、動画分析、愛媛県伊方町  
Keywords: COVID-19, Fieldwork, Video analytics, Ikata Town, Ehime Prefecture

【原稿受付：2023年1月31日 受理・採録決定：2023年2月10日】

## 要旨

本稿では、コロナ禍により現地を訪問しての活動が大きく制約される中、学生教育としてのフィールドワークを展開する手法や、フィールドワークの実施が困難であっても対象地域への理解や関係性構築を進める手法、またこれらの活動による成果について、愛媛県伊方町における淡野研究室での活動を対象として報告する。活動内容として、伊方町観光商工課が実施する佐田岬ワンダービュー動画の分析と現地での数回のフィールドワークを行った。この結果、伊方町では国道197号線沿いの施設などを中心に、地域の認知や関心がみられる一方、長らくの歴史や地域の文化を有する地域住民の生活の場への注目度合は低いことが明らかとなった。こうした見過ごされがちな地域資源に焦点を当て、地域住民らとともにその価値を拾い上げていくことも、今後の重要なテーマと位置づけられる。なお本報告での活動は、次年度(2022年度)の現地での詳細な聞き取り調査の実施を行う基礎的資料とすることができた。

## 1. はじめに

社会共創学部地域資源マネジメント学科の淡野研究室では、2021年2月の伊方町観光商工課との検討を経て、同町の地域振興に関わる連携活動を実施することとなった。この取り組みは、筆者の一人である牛山が代表となってすでに展開されている地域調査研究等事業支援補助金の枠組みの中で実施され、牛山・秋丸(2021)で示されるヘルスプロモーションや地域活性化イベントの動きと並行するかたちで進行することとなった。

一方でこの時期は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大が繰り返し発生し、感染防止対策のための試行錯誤が続く中、様々な活動が制約を余儀なくされていた。政府の対応はもとより、大学が求める対策にもしばしば変更が生じ、フィールドワークの実施はもとより、その計画段階から見通しを立てづらい状況が続いた。筆者のうち淡野は、フィールドワークを通じた学びや地域分析などの有効性を重視する観点から(淡野、2016;2017)、コロナ禍以前には、淡野研究室で3泊4日の現地調査を主とするフィールドワークを学部正課教育の「プロジェクト演習」<sup>1)</sup>において展開していたが、同様の形式での実施は困難と判断された。また、初年度の活動として伊方町内の複数箇所を訪れる上では、自動車による移動が必要となるが、やはり感染防止対策の観点から、1台につき乗車定員数の2分の1未満とするなどの制約も生じていた。以上の状況から、従来通りのフィールドワークの実施はできないものの、当該地域と関わりを有しつつ、学生教育にも資するフィールドワークの在り方を模索することとなった。

ここで注目されたのが、伊方町観光商工課が2018年より実施する「佐田岬ワンダービューコンペティション」(以下、サダワン)である。この事業は、伊方町が主に位置する佐田岬半島を対象に、地域内外の応募者が魅力的な場所や事物を撮影した動画を作成・投稿するものである。こうした動画はすなわち、伊方町のどのような場所や事物が注目されているのか、逆に見過ごされているのかを、端的に表したものとも解釈できる。そしてこうした情報を把握・分析することにより、伊方町を実際に訪問できない状態であっても、地域の理解や課題抽出に関する教育を展開することができると考えられる。以上をふまえ、2021年度のプロジェクト演習のテーマを「愛媛県伊方町におけるサダワン動画の分析を通じた地域認識の可視化と地域資源の活用」と設定した。

本稿は、上記テーマに関する教育・活動方法と分析に基づく成果について報告するものである。

## 2. 活動内容

本活動は大きく、大学内での作業と現地でのフィールドワークで構成される。

大学内での主な作業はサダワン動画の分析であり、2020年に応募された作品98本<sup>2)</sup>がこの対象である。分析方法として、すべての動画を1秒単位で確認し、その際の動画内に映し出された場所とテーマを抽出した。これとともに、伊方町全図をベースとして、観光マップやパンフレットなどを活用しながら、町内の主だった観光スポット等や国道197号線を目印的に記入した(図1)。なおこのプロセスには、作業を通じて学生が伊方町への理解を深める目的も存在する。そして、先述の動画分析で抽出した情報を地図上に落とし込んだ。筆者らのみでは場所の特定が困難な場合は、該当箇所を取りまとめたうえで、後述する現地訪問による視察や伊方町観光商工課への聞き取りによって、情報収集に努めた。

こうした作業と並行して、伊方町でのフィールドワークも実施した。サダワン動画で頻繁に取り上げられていた場所や事物、また町内の特色ある場所等をあ



図1 大学内での分析作業  
(2021年10月、淡野撮影)



図2 伊方町でのフィールドワークの様子  
(2021年12月、淡野撮影)

らかじめピックアップし、観光商工課職員の同行のもと、日帰りで計3回、現地を訪問した(図2)。2021年7月の調査では、せと風の丘パーク、瀬戸頂上線沿いの風車群、佐田岬はなはな、番匠鼻、須賀公園を訪れた。12月には2度現地を訪れ、1度目は名取地区、佐田岬ツーリズム協会、大佐田地区のオリコの里において、2度目は伊方町役場と町見郷土館において、それぞれ聞き取り調査を実施した。

これらの内容を取りまとめ、2021年12月21日に実施された、地域資源マネジメント学科文化資源マネジメントコース内でのプロジェクト演習成果報告会において、学生が発表を行った。

### 3. サダワン動画の分析結果

対象とした98本の動画のうち、120秒以内のジャンルで作成されたものは83本、同30秒以内のものは15本であった。1本あたりの時間は83.0 ± 35.7秒(平均 ± 標準偏差)であり、分析によって場所を特定できたのは1本あたり51.3 ± 34.9秒であった。図3はその分析過程の一例である。s2054動画<sup>3)</sup>の場合、4～10秒目までの計7秒間に川之浜海水浴場で過ごす男女が、また18～23秒目の計6秒間に二見くるりん風の丘パークが、それぞれ映されていた。

この分析結果を、一度、紙ベースの地図に落とし込んで情報を整理した後(図4)、各撮影場所における総撮影時間および動画本数の集計と、マップ作成を行った。2020年のサダワン動画において、総撮影時

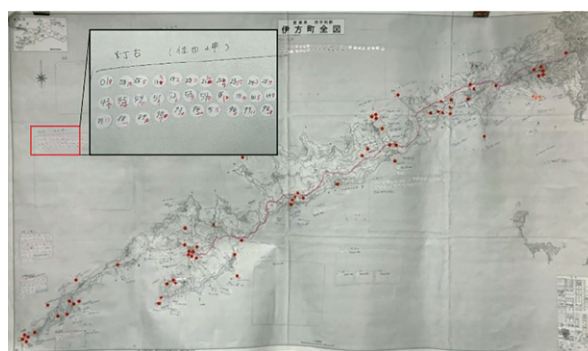


図4 地図への落とし込み作業  
(サダワン動画の分析をもとに筆者作成)

表1 サダワン動画における主な撮影対象場所(2020年応募作品)

撮影対象場所	総撮影時間(秒)	動画本数(本)
はなはな・三崎港	764	42
佐田岬灯台	742	53
海(沖合)	692	47
せと風の丘パーク	549	28
風車(群)	442	44
御籠島展望所	216	29
名取地区	196	7
アコウ樹	121	8
番匠鼻	107	5
二名津地区	105	1
椿山展望台	83	12
大久展望台	81	9
ムーンビーチ井野浦	80	6
漁業風景	69	3
三崎精練所跡	67	2
亀ヶ池温泉	53	5
室鼻公園	47	2
瀬戸アグリトピア	45	3
女子岬	41	3
梶谷鼻	41	2
ピクニックハウス	40	1
精練所近辺	37	1
大久地区	35	1
井野浦地区	34	4
二見地区	34	1
民宿大岩	32	3
メロディーライン	26	4
きらら館	25	6
三崎八幡神社	24	2
権現山	23	4
野坂神社	21	2
雀簗	21	1
三机港	21	1
佐田岬漁港	20	1

(サダワン動画の分析をもとに筆者作成)  
総撮影時間が20秒以上の場所のみを記載した。

番号	s2054		
秒	場所	テーマ	備考
1	不明	男性と女性	詳細不明
2	—	タイトル	
3	—	タイトル	
4	川之浜海水浴場	男性と女性	7s
5	川之浜海水浴場	男性と女性	
6	川之浜海水浴場	男性と女性	
7	川之浜海水浴場	男性と女性	
8	川之浜海水浴場	男性と女性	
9	川之浜海水浴場	男性と女性	
10	川之浜海水浴場	男性と女性	
11	—	「待ってる?そう、待ってる。」の文字	
12	—	「待ってる?そう、待ってる。」の文字	
13	—	「待ってる?そう、待ってる。」の文字	
14	—	「待ってる?そう、待ってる。」の文字	
15	トンネル	重中	
16	トンネル	重中	
17	トンネル	トンネル出口	
18	二見くるりん風の丘パーク	石碑	6s
19	二見くるりん風の丘パーク	石碑	
20	二見くるりん風の丘パーク	男性と女性	
21	二見くるりん風の丘パーク	男性と女性	
22	二見くるりん風の丘パーク	佐田岬風車	
23	二見くるりん風の丘パーク	佐田岬風車	
24	不明	石碑	
25	不明	木々	

図3 サダワン動画の分析過程の例  
(サダワン動画の分析をもとに筆者作成)



間が最も長かったのは佐田岬はなはなおよび隣接する三崎港であり、42本の動画で計764秒に達した(表1)。次いで長いのは佐田岬灯台であり、53本の動画で計742秒であった。三番目に長いのはせと風の丘パークであり、28本の動画で計549秒であった。また、明確には場所を特定できないものの、伊方町の特徴的な風景として撮影された内容として、佐田岬半島や夕日を背景に海を撮影したパートが47本の動画で計692秒、単体もしくは複数の風力発電用風車を撮影したパートが44本の動画で計442秒存在した。これらのほか、5本以上の動画で取り上げられた場所は、佐田岬灯台の近隣に位置する御籠島展望所と椿山展望台、また大久展望台、アコウ樹、名取地区、ムーンビーチ井野浦、きらら館、番匠鼻、亀ヶ池温泉であった。

主な撮影対象場所を空間的に把握するために作成したマップが図5である。総撮影時間の長さを円の大きさで表すとともに、動画本数については色で区分した。なお、総撮影時間が20秒未満のものは、場所を示すのみとしている。あらためて撮影時間や本数の長い場所からみると、まず佐田岬はなはなは2020年にリニューアルオープンし、レストランや土産物店、レンタサイクル施設など、伊方町の主たる観光拠点として整備されたほか、テレビCMが放映されている。また三崎港は国道九四フェリーによって大分県の佐賀関港と70分で結ばれる交通の要衝である。

次に佐田岬灯台は四国最西端に位置し、灯台からは九州を望むことができる。さらにその周辺にある御籠島展望所や椿山展望台の2か所も含めた動画が複数存在し、こうした場所自体や、そこから見える佐田岬灯台を映したものも存在した。せと風の丘パークは、国道197号線北側の瀬戸頂上線沿いに存在し、駐車場も整備されているため、アクセスが容易である。現地では半島に吹き込む風を活用した風力発電用の風車を多く見ることができ、ほかにもみさき風の丘パークや、先述の二見くるりん風の丘パークが半島内に整備されている。これらのほか、撮影時間・本数の比較的多い大久展望台、アコウ樹、きらら館などは国道197号線沿いに存在する。

以上のように、伊方町では、国道197号線沿いの施設などを中心に、地域の認知や関心がみられることが明らかとなった。一方でこうした認知等は偏在的であり、国道から離れた、従来の地域住民の生活空間への注目は低いことがうかがえた。投稿された動画自体が、限られた時間内でインパクトのある内容を目指したものが主であることから、おのずと主要な観光施設・スポット等が取り上げられがちであることが推測される。これとともに、各集落へのアクセスの利便性の悪さも、注目度合の低さの一因と考えられる。すなわち、佐田岬半島の地形的な特徴から考えると、東西方向の距離は約40kmと長いものの、国道197号線の存在

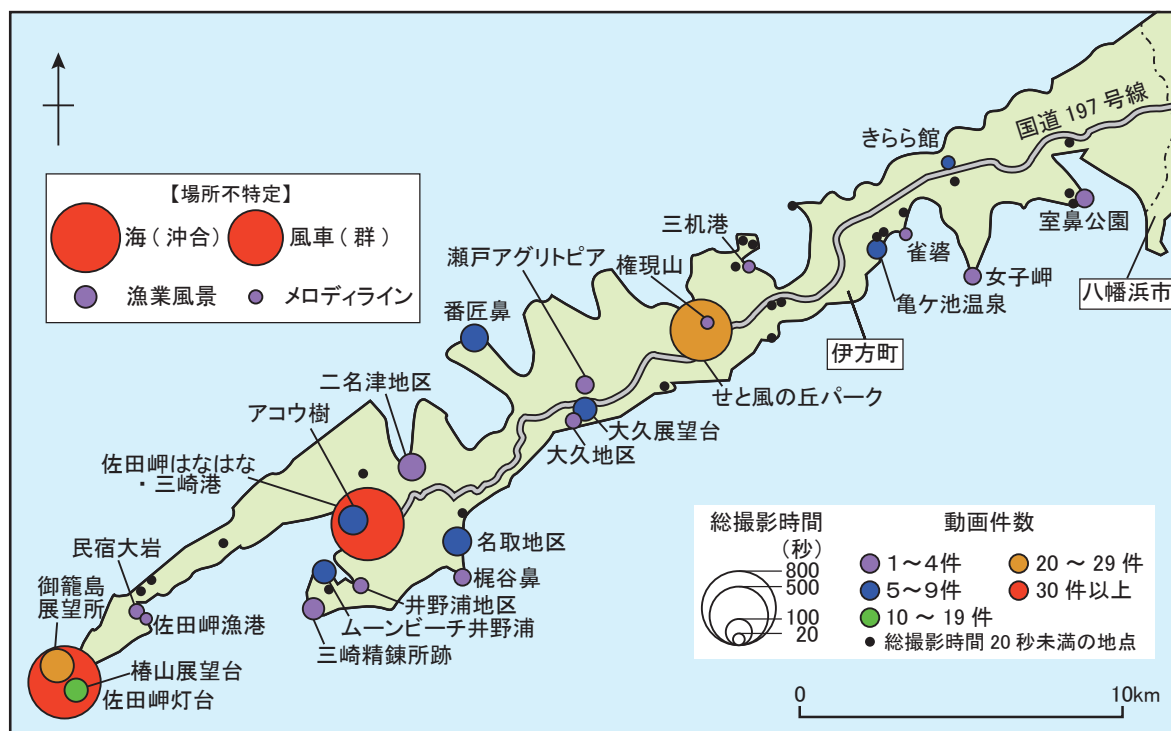


図5 サダワン動画における伊方町の主な注目地点・事物(2020年動画)  
(サダワン動画の分析をもとに筆者作成)

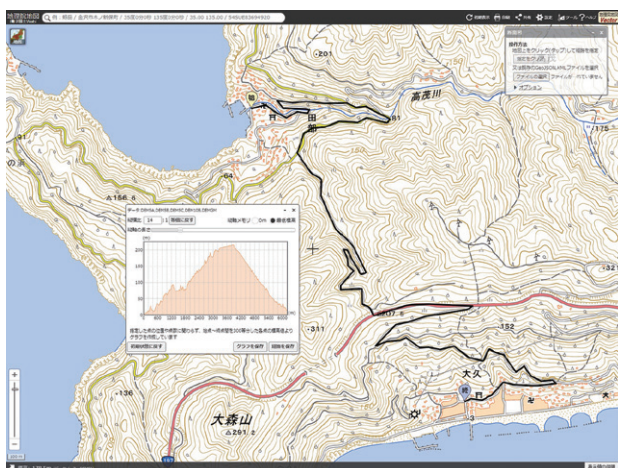


図6 田部地区－大久地区間の移動経路と起伏  
(地理院地図により筆者作成)

により、移動面での利便性は高い。一方で、半島内での南北方向の距離は数 km と短いものの、起伏の激しさや道路状態により、訪問者の意識や行動には制約がかかることが推測される。例えば半島中部の田部（たぶ）地区から大久（おおく）地区間を移動すると仮定すると、直線距離は 2 km に過ぎないものの、この間の起伏は 220 m もあることから実際の走行距離は 6 km に及ぶ（図 6）。北側の田部地区から国道まですれ違いが困難な道路を通りながら険しい上り道を進み、さらに国道から大久地区へ、再び狭い生活道路を通りながら下り道を移動しなければならない。こうした交通条件が、来訪者が国道から逸れた各地区に関心を持ったり、訪れたりすることを妨げる一因になっているものと考えられる。

#### 4. おわりに

本稿では、コロナ禍により現地を訪問しての活動が大きく制約される中、学生教育としてのフィールドワークを展開する手法や、フィールドワークの実施が困難であっても対象地域への理解や地域との関係性構築を進める手法、また活動による成果について、愛媛県伊方町における淡野研究室での活動を対象として述べた。

サダワン動画の分析を通して、伊方町では、国道 197 号線沿いの施設などを中心に、地域の認知や関心がみられる一方、長らくの歴史や地域の文化を有する地域住民の生活の場への注目度合は低いことが明らかとなった。こうした見過ごされがちな地域資源に焦点を当て、地域住民らとともにその価値を拾い上げていくことも、今後の重要なテーマと位置づけられる。

こうした観点から、本活動を通じて得られた知見をもとに、2022 年度のプロジェクト演習では、名取地

区を対象とした現地調査に結びつけることができた。同地区は特徴的な石垣景観や中晩柑栽培による柑橘農業など、多様な地域資源を有しており、地域の歴史や文化の活用や再評価にむけた活動を展開しうると考えられる。この内容については、稿をあらためて詳述し、地域への還元も進めることとしたい。

#### 付記

本研究には、伊方町の地域調査研究等事業支援補助金「地域活性化プロジェクト『伊方ワールド・オブ・ダンス』」を推進する高大連携活動と佐田岬半島の地域資源の活用に関する調査研究－その 1」（代表：牛山眞貴子）の一部を使用した。現地調査に際して、伊方町観光商工課の梶谷泰治氏と林里花子氏（いずれも所属は当時）よりご助力を得た。記して御礼申し上げます。

#### 注

- 1) 厳密には、2 回生向けの「プロジェクト基礎演習」、3 回生向けの「プロジェクト応用演習」が、それぞれ単位評価を行う授業であるが、2・3 回生合同での活動でもあることから、本稿ではこれらを総称して「プロジェクト演習」と表記する。
- 2) サダワンのウェブページ上で一般公開されているのは受賞作品など 11 本のみであるが、観光商工課の許諾のもと、すべての作品を閲覧し、分析対象とした。
- 3) 各動画には独自のタイトルが存在するが、非公開作品も含まれるため、筆者らが独自にナンバリングした名称（s2001～s2098）を記載している。

#### 参考文献

- 牛山眞貴子・秋丸國廣（2021）：伊方町の地域活性化を目的とした高大官連携フィールドワークプロジェクトのニューノーマルにおける実践と課題。愛媛大学社会創学部紀要，5（1），69-74.
- 淡野寧彦（2016）：大学初年次生に対する入門的フィールドワーク実践の成果と課題。大学教育実践ジャーナル，14，29-34.
- 淡野寧彦（2017）：大学初年次生に対する移動・観察型フィールドワークの実践。大学教育実践ジャーナル，15，45-51.